

## 2020年度第1回中山競馬特別レース名解説

### <第1日>

#### ○ 招福ステークス

招福（しょうふく）は、福を招くこと。新年には、招福を祈願して多くの人が寺社に参拝する。

#### ○ サンライズステークス

サンライズ（Sunrise）は、「日の出」を意味する英語。

#### ○ 日刊スポーツ賞中山金杯（GⅢ）

本競走は、昭和27年に『金杯』の名称で創設された重賞競走。当初は2600mのハンデキャップ戦で実施されていたが、29年から別定重量戦に変更され、36年には2000mのハンデキャップ戦となり現在に至る。平成8年からは東西で行われる金杯を区別するため、名称が『中山金杯』となった。『京都金杯』と並んで、新年の競馬を飾る名物競走として定着している。

日刊スポーツは、北海道・東京・愛知・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

### <第2日>

#### ○ 初茜賞

初茜（はつあかね）は、初日の出の直前に東の空が黄赤色に染まった様子のこと。新年を表す季語として用いられる。

#### ○ ジュニアカップ（L）

ジュニア（Junior）は、「年少者」「息子」を意味する英語。

#### ○ カーバンクルステークス

カーバンクル（Carbuncle）は、1月の誕生石であるガーネットを丸く磨いたもの。元々ラテン語で「燃える石炭」または「小さな石炭」の意味で、転じてルビーなどの赤い宝石の総称としても使われる。この宝石を持つと、富と幸運がもたらされると言われている。

### <第3日>

#### ○ 中山新春ジャンプステークス

新春（しんしゅん）は、新年や正月を指す言葉。新年を表す季語として用いられる。

### ○ 朱竹賞

朱竹（しゅちく）は、紅寒竹または稚児寒竹の別名。寒竹の黄金斑入り葉種で日光に当たると棹が朱紅色に染まる。

### ○ 頌春賞

頌春（しょうしゅん）は、新春を褒めたたえること。年賀の挨拶として記す語。

### ○ 迎春ステークス

迎春（げいしゅん）は、新年を迎えること。賀詞として年賀状などに用いられる。

## <第4日>

### ○ 黒竹賞

黒竹（くろちく）は、イネ科タケ類の一種。黒の稈（かん）はタケ類の中でも珍しい。稈の色は生え始めの頃は緑色だが、秋頃からメラニン色素が増えて黒色に変わる。中型で日本各地に分布するが、主な生息地は高知県と和歌山県。淡竹（はちく）の一種であり、同種内の変異から生まれたと考えられている。建築物や家具の装飾材、庭園などに使われる。

### ○ 初咲賞

初咲（はつさき）は、季節の最初に他の花に先がけて咲くこと。また、初めて花が咲くこと。

### ○ ポルックスステークス

ポルックス（Pollux）は、ふたご座のベータ星。ふたご座の恒星の中では最も明るい。カペラ・アルデバラン・リゲル・シリウス・プロキオンと共に「冬のダイヤモンド」を構成する。名は、ギリシア神話で兄カストルと共にゼウスとレダの間に生まれた双子の弟の名前「ポリュデウケース」に由来する。

## <第5日>

### ○ 成田特別

成田（なりた）は、千葉県北部の市。中世以来、成田不動で有名な成田山新勝寺の門前町として栄えた。東部の三里塚には、戦前のサラブレッド生産に大きな役割を果たした宮内庁下総御料牧場があった。現在は、世界 100 都市以上とのアクセスがある成田国際空港を有し、国際都市として発展している。

## ○ 初春ステークス

初春（はつはる）は、春の始め、新春のことを指す言葉。旧暦の1月のことを「初春月」とも言う。新年を表す季語として用いられる。

## ○ フェアリーステークス（GⅢ）

本競走は、昭和59年に『テレビ東京賞3歳牝馬ステークス』として創設された重賞競走。当初は1600mで実施されていたが、平成3年に距離が1200mに短縮され、6年より現在の名称となった。20年の『阪神ジュベナイルフィリーズ』の実施時期移設に伴い、21年より実施時期を12月から1月へと変更し、距離を再び1600mに戻して実施されている。

フェアリー（Fairy）は、「妖精」を意味する英語。

## <第6日>

### ○ 菜の花賞

菜の花（なのはな）は、アブラナの花のこと。アブラナは、アブラナ科の越年草。千葉県の花。ナタネ（菜種）とも呼ばれ、油料作物や野菜などとして広く栽培されている。花言葉は「競争」「快活」。

### ○ 初凧賞

初凧（はつなぎ）は、元日の凧のこと。風がやみ、波がなくなり、海面が静まることを凧と言う。新年を表す季語。

### ○ ニューイヤーステークス（L）

ニューイヤー（New Year）は、「新年」を意味する英語。新年の挨拶は“Happy New Year”。

## <第7日>

### ○ 初富士ステークス

初富士（はつふじ）は、元日に望み見る富士山のこと。旧来より初富士は縁起の良いものと考えられている。新年を表す季語として用いられる。

### ○ ジャニュアリーステークス

ジャニュアリー（January）は、「1月」を意味する英語。前後に顔を持つ門番の神で、日の出や日没をはじめ、あらゆる物事の始まりを司るとされたローマ神話の神ヤヌス（Janus）にちなんで、1年の最初にあたる月を「January」としたと言われている。

## ○ 京成杯（GⅢ）

本競走は、昭和 36 年に創設された重賞競走。創設から長きに渡り 1600m で実施されていたが、平成 11 年に距離が 2000m に延伸されたことにより、クラシックに向けて各馬の将来性や距離適性を試す上で更に重要な競走となった。

京成電鉄は、千葉県市川市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

## <第 8 日>

### ○ 呉竹賞

呉竹（くれたけ）は、ハチク（淡竹）の別称。中国の南北朝時代に呉の国から渡来したと言われる。朝鮮半島や中国大陸、日本では近畿、四国、九州に分布し、耐寒性が強く、北海道伊達市にも生息していることが確認されている。稈（かん）の最大直径は約 10cm で、高さは 15m 程になる。皮には斑点等が無いため見た目が美しい。硬いうえに溝がやや深く、また細くて割れやすいので、茶筌などの材料としても用いられる。

### ○ 東雲賞

東雲（しのめ）は、早朝に東の空がわずかに明るくなる頃のこと。夜明けを表す言葉としては他に「暁（あかつき）」「曙（あけぼの）」などがあるが、厳密にはその時間帯によって使い分けられる。東雲は、夜の終わりを指す「暁」と、太陽が昇る頃を指す「曙」の間。元旦の暁天は特に「初東雲」と言われる。

### ○ アレキサンドライトステークス

アレキサンドライト（Alexandrite）は、宝石の一種。太陽の下では草緑色、人工光の下では赤紫色に輝く高価な宝石として知られている。名は、この石がロシア皇帝アレクサンドル 2 世の成年式の日に見つかったことに由来する。

## <第 9 日>

### ○ 若竹賞

若竹（わかたけ）は、その年に生え出た竹のこと。今年竹、新竹とも言う。俳句の季語としても用いられ、与謝蕪村の『若竹や夕日の嗟峨と成にけり』などが有名。

### ○ 初霞賞

初霞（はつがすみ）は、初春の頃に立つ霞のこと。新年を表す季語。

## ○ アメリカジョッキークラブカップ（GⅡ）

本競走は、日米の親善と友好を目的として、ニューヨークのジョッキークラブから優勝杯の贈呈を受け、昭和 35 年に創設された重賞競走。創設時は 2000m のハンデキャップ戦であったが、翌年より 2600m の別定重量戦に変更された。その後、幾度かの距離の変更を経て、59 年に 2200m に短縮され（同年は降雪のためダート 1800m に変更）、現在に至る。